

■ 玉野高 1 年有志 ■

「チリメンモンスター」調査

海洋生物 多様性に驚き

徒らは成果の発表を予定しており、「今まで発見されていないようなチリモンをゲットしたい」と張り切っている。
(近藤哲也)

玉野高校の1年生有志10人が、ちりめんじゃこに混じっている小さな魚介類「チリメンモンスター」の調査に取り組んでいる。海洋環境や生き物の生態を学ぶのが目的。生



ちりめんじゃこの中から、チリメンモンスターをピンセットでつまみ出す玉野高生徒

な魚介類が、一緒に加工されている。カワハギ、タコ、シヤコ……。ちよっぴりグロテスクだけれど愛らしいチリモンは、海洋生物の多様性を学べる身近な教材として、注目されつつある。

ちりめんじゃこの原料だが、よく見ると水揚げはカタクチイワシの稚魚。時に紛れ込んださまざまな

玉野高は2015年度から科学技術振興機構（JST、東京）の支援事業「中高校の科学実践活動推進プログラム」採択校に選ばれ、調査はその一環。9月にスタートし、生徒は市販のじゃこパックの中からチリモンを見つけては、図鑑やインターネットで特徴を

環境、生態研究 成果発表めざす



玉野高の授業で見つかったチリモン。エビ、タコ、タチウオなどが交じっていた

2時間の調査で約50種類が「ゲット」できた。その結果を踏まえ、風間美穂学芸員が「多くの河川が注ぎ、栄養豊富な瀬戸内海は世界有数の漁場といえる」と指摘。年間を通して採れるとされるイカ類でも8月には生息数が少ないことや、牛窓産にはタツノオトシゴやハゼが多く、藻場があると類推されることなどを説明した。

調べている。14日には、チリモン 使って調査した。研究をリードする「きにパックの中のじゃこしわだ自然資料館」(大をを広げ、交じったチリ阪府)の学芸員ら3人 モンをピンセットで選を招き、特別授業を実施。細長いタチウオや施。大阪湾、瀬戸内市 ひよっとこのように口の牛窓、徳島県沿岸のをとがらせたタツノオ瀬戸内海3カ所て8月 トシゴの赤ちゃんなどを取り除く前の「実習 ち悪い」「ちっちゃく用「ちりめんじゃこを てかわいい」。

生徒は今後、11月から来年1月までのチリモンも調査し、結果は県内の高校理科で学ぶ生徒たちの研究発表会で披露する予定。平林歩輝さん(16)は一調べて分かった瀬戸内海の魚介類の広がり驚いた。冬場にどんなチリモンを見つけたか楽しみ」と話した。

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。